

9月5日(水)

## JETROサンフランシスコ 訪問

13:00～14:30

於：JETRO サンフランシスコ

出席者 JETRO サンフランシスコ

エグゼクティブ ディレクター 曾根 一朗氏

シリコンバレーの経済状況とジェットロ事業について

### 【概要及び説明要旨】

#### シリコンバレーの概要

シリコンバレーとは、サンノゼ市を中心とするサンタクララ郡全域及び隣接するサンマテオ郡、アラメダ郡、サンタクルーズ郡の一部から構成される面積約1,500平方マイルの地域を指し、約244万人の人口を有している。

シリコンバレーの父と言われるスタンフォード大学工学部のフレデリック・ターマン教授が学生に対して、東海岸の大企業に入社する代わりに自ら起業することを積極的に勧めたのが、今日の発展の端緒となっている。1951年には、スタンフォード大学が敷地の一部をインダストリアルパークとして、進出企業にリースを行うことにより、産業の集積に大きく貢献してきた。

#### ベンチャー企業への投資状況

雇用総数に占める従業員数500人未満の中小企業による雇用の比率が、全米全体では約50%であるのに対し、シリコンバレーにおいては約77%を占めるなど、シリコンバレーでは中小企業による雇用が労働力市場において大きな割合を占めており、新規ベンチャー企業の創出が「労働力市場のコアエンジン」として機能している。また、有望なベンチャー企業に対して出資するベンチャーキャピタルも数多く存在している。

2006年における全米のベンチャーキャピタル投資額は約255.0億ドルであったが、その36%にあたる約91.6億ドルがシリコンバレーのベンチャー企業に投資されている。



#### シリコンバレー経済の最新ファクツ

- ① VC投資の産業別内訳は、ソフトウェア23%、半導体15%、医療機器12%、通信9%、バイオ9%、ネットワーク機器8%、産業エネルギー8%、メディア・エンタメ6%となっている。
- ② VC投資のうち、産業エネルギー、メディア・エンタメが最も大きな伸びを示し、それぞれ、環境とWEB 2.0ブームを反映。その他、バイオ・医療機器分野も堅調な伸びを示している。
- ③ 全米の特許登録件数のうち11%がシリコンバレーから(2005年)。全米の一人あたり特許件数は、1994年から2004年までに35%伸びたが、シリコンバレーでは232%と大きく伸びた。
- ④ 人口の40%以上が大学生以上。科学・工学系人材のうち55%が外国生まれ。うち、インド系14%弱、中国系8%強、ベトナム系4%強、台湾

系 3 % 強、日系 1 % 強である。

### バイオ産業の集積

- ① カリフォルニア州には、世界のライフサイエンス関連企業約 6, 250 社の内、約 40 % にあたる 2, 500 社が集積し、また、世界のトップ企業 15 社中 6 社が、カリフォルニア企業である。
- ② 特に、サンフランシスコベイエリアには上場企業約 80 社を含め、全米の約 3 分の 1 のバイオ企業が集積する全米最大のバイオクラスターが形成されている。

### JETORO サンフランシスコ事務所の重点事業

- 1 対日投資誘致促進事業
- 2 広報・マーケティング事業
- 3 国際的企業連携事業(ベンチャー支援事業等)
- 4 調査事業
- 5 輸出促進事業

<b>カリフォルニア事情についての講演・意見交換</b>
------------------------------

15:30～16:30

於：ホテル・ニッコー・サンフランシスコ

講師：バンク・オブ・ザ・ウエスト銀行

取締役顧問 松浦 功氏

(兼務) 大阪大学 法学部 客員教授

### カリフォルニア事情について

世界は動いている、その中でも最も動きの激しいカリフォルニアのシリコンバレー、ベイエリアでの情勢について講演をしていただいた。

### 【講演内容】

カリフォルニア及びサンフランシスコと日本は、地理的位置、文化的背景等から非常に密接な関係を

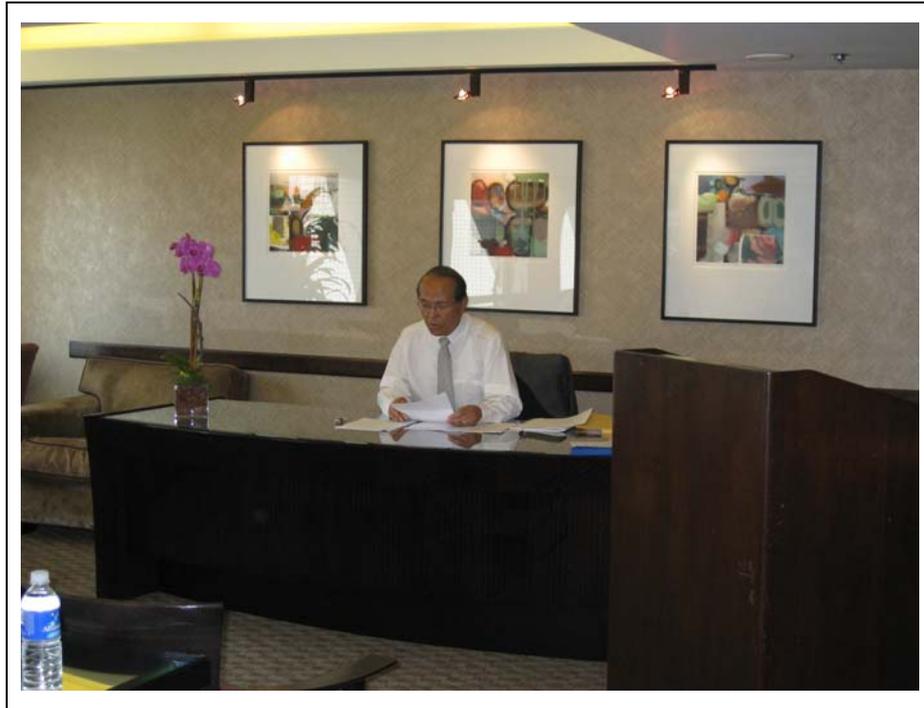
有している。

カリフォルニア州にとって日本は最大の投資国である。また、同州に所在する海外企業の関連会社のうち、日本関係のものが最も従業員数が多い。同州の輸出相手国として、日本はメキシコに次いで第2位であり、特に農産物については最大の輸出先となっている。

日本から米国への観光客のうち同州を訪れる人はその20%強を占め、同州にとって海外からの観光客のうち日本人が最も多く訪れている。米国に在住する日本人のうち3分の1強が同州に住み、また、数多くの日系人が在住している。

また、サンフランシスコ市も、歴史的に日本との関係が大変深く、1860年、勝海舟ら幕府の遣米使節団は咸臨丸で到着して以来、サンフランシスコ市は、日本をはじめアジアから米国への玄関口とされてきた。

また、サンフランシスコ総領事館は、米国に所在する日本の在外公館の中で最も歴史が古く、また、サンフランシスコ市において、第2次世界大戦の敗戦から日本が国際社会に復帰する契機となったサンフランシスコ講和条約が締結された。



カリフォルニア州で注目をされている業種は、特にシリコンバレーやサンフランシスコを中心とする北カリフォルニアでは、半導体や電子部品など技術関連企業での求人が目立っている。一時は全盛を迎えたドットコム関連会社は完全に低迷しているが、半導体は少しずつ回復してきている。特に、シリコンバレーは、企業の入替わりが多く競争の厳しい市場であるが、将来性の高い新規ベンチャー企業が進出してきており、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなどの新分野において、技術力を持つ人材へのニーズが高まっている。

採用状況といえば、業種によって開きがある。一般的には不況に左右されづらい業種である、食品、日常雑貨品、化粧品などは順調に成長している。また、求人の多い職種は、北カリフォルニアでは、電気、機械、半導体産業などを中心に、技術者、研究者、セールスエンジニアなどへのニーズが高まっており、技術力やノウハウを持ち、即戦力となり得る人材が求められている。

カリフォルニア市場の今後の行方は、北カリフォルニアでは、やはりバイオテクノロジーなど、新技

術に関わる新しい市場の誕生に期待をよせている。

カリフォルニアは気候も穏やかであり、エリアによっては仕事に関して真剣味に欠けている、という印象があるかもしれないが、頑張っている人や成功している人も多くいる。米国の他州に比べて日系企業の数も多く、また業種も多岐にわたっており、チャンスがたくさんある。